

たび日記 No. 2

くまモンと一緒に in 熊本

広報情報委員会 星野 浩二

5月22日、23日と熊本市で全国会議があり、築城400年を迎えた熊本城や九州新幹線の開通で開発が進む熊本駅周辺地区などを視察しました。

○くまモンとの出会い

ゆるキャラ人気でヒットしたくまモン。市内多くの土産店でキャラクターグッズが並び、熊本城近くの観光施設では等身大（残念ながら着ぐる身本人には会えませんでしたが。）の彼がお出迎えます。



ただ、くまモンは熊本県のイメキャラだそうなので、市の熊本城をモチーフした「ひごまる」君とはライバル関係なの（？）、市の観光パンフレットにくまモンは登場しません。



くまモングッズが並ぶ土産店

○熊本城

日本三名城の一つと数えられる熊本城。加藤清正が慶弔12（1607）年に築城してから400年以上が経過しました。市は1997年度に「熊本城復元整備計画」を策定し、半世紀の月日をかけて城郭全体（約98ha）を往時の雄姿への復元を目指しています。

熊本城で有名なのは石垣です。出隅部に長石を交互に積んでいく方法は「算木積」と呼ばれ、下は30度ほどと緩やかながら、上に向かうに従って角度を高め、天端では75度の絶壁になります。

黒と白の重圧な佇まいの天守閣は、1960年に鉄筋コンクリート造りで外観復元されたものです。一方で2008年に木造りにより完全復元された本丸御殿は、部屋の各所に漆塗りや飾り金具が配され、障壁画には下地に金箔を重ね、当時の岩絵具を用いて描かれており、大名文化の粋を集めた絢爛たる空間に圧倒されます。



天守閣と石垣



本丸御殿大広間

○熊本駅周辺

2011年3月に九州新幹線が全線開業しました。JR熊本駅をでると、雲形をイメージしたRCフラットスラブの公共上屋がお目見えます。また駅前

広場内にある熊本駅前交番はパトカーを真似たモノクロームの色合いで、大小の円形の開口はカラフルなシャボン玉のように映ります。両建築とも1988年に細川護熙元県知事が始めた「くまもとアートポリス事業」によるもので、県内には庁舎、公営住宅、公共トイレなど大小問わず87の施設が建築されています。斬新なデザインとともに、長期に亘り引き継がれた公共建築物に対する環境デザインの理念のすばらしさに感服します。

熊本市の歴史は熊本城を中心に発展してきました。市役所や美術館などが立地し、上通・下通の商店街は昼夜を問わず多くの人を訪れます。それに比べ熊本駅周辺は、道路が狭隘で低層の密集市街地が広がり、人口減少・商店街の衰退など陸の玄関口として機能していませんでした。新幹線の開通に伴い再開発や区画整理事業により駅前広場やホテル等の商業ビルの整備が進みつつあり、熊本市の顔として変わろうとしています。



熊本駅周辺



熊本駅前交番

○阿蘇山

少し足を伸ばして阿蘇山に登りました。熊本駅から電車とバスを乗り継ぎ約2時間で阿蘇山中腹のドライブインに到着します。濃霧のうえ強い風で上着がないと寒いくらいで、平原には所々ミヤマキリシマ（ツツジ科）が咲いています。ここより目的地の中岳火口付近まで移動するつもりが、あいにく風向きの影響で火山性の有毒ガスが危険なため立入禁止の措置がとられています。過去に登山者がガスを吸引し死亡する事故があったようで、安全第一とすれば仕方ありません。



火口付近から噴出す火山ガス

しばらく入山規制の解除を待ちましたが時間切れです。遠目から吹き上がる火山ガスを恨めしく眺め、人間を寄せ付けぬ自然の厳しさ雄大さを感じつつ、やむなく阿蘇火山博物館を見学して下山することにしました。